

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和6年1月19日

協議会名:幸田町地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は 地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
【現況整理】 ・JR沿線の東側に人口や施設が集中しており、町内の商業施設やJR3駅、医療施設への移動が多くみられる。 ・町内には、東海道本線の相見駅、幸田駅、三ヶ根駅の3駅があり、コミュニティバス「えこたんバス」を運行し、公共交通ネットワークを形成している。このほか、デマンド型乗合送迎サービスの「チョイソコこうた」と、藤田医科大学岡崎医療センターへの行き来を担っている「藤田乗合直行タクシー」、ボランティアドライバーによる「坂崎コミュニティライド」を社会実験として導入している。また、民間タクシー利用時の「福祉タクシー料金助成事業」「在宅高齢者外出支援タクシー利用助成」も行い、コミュニティバスは、一部の時間をスクールタイムとして運行している。 【都市交通施策に関するニーズ調査】 ①鉄道利用者:3駅の駅前広場にて、調査員による聞き取り調査(195件) ②高齢者(65歳以上):アンケート調査(572/1,000件) ③町内中高生:アンケート調査(564/2,480件) ④企業:町周辺に立地する企業へアンケート調査(5事業所) ⑤町民:18歳～64歳へアンケート調査(347/1,000件) ⑤町内障がい者団体:ヒアリング調査(3団体)) を実施。 ・高齢者の外出目的として、買い物(日用品)による外出の割合が最も高かった。 ・外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由として、「出かけたい」と思える外出先が少ないから」が最も多く、約6割を占めた、 ・いずれの調査においても、えこたんバスの利用頻度について「ほとんど利用しない」と回答した人の割合が9割以上であった。 ・「高齢者、身体障がい者、妊産婦などの移動を便利にするため」を優先すべき目的として挙げる人の割合が最も高い結果となった。 【幸田町地域公共交通計画(案)の作成】 現況整理等の調査や幸田町地域公共交通会議の審議内容を反映させた計画(素案)を策定した。 【幸田町地域公共交通会議における協議・報告】 計画策定に向けた検討方針やニーズ調査等、計画素案等を地域公共交通会議で協議・報告(第1回会議:令和5年7月、第2回会議:令和5年10月、第3回会議:令和6年1月、第4回会議:令和6年3月(予定))	A 統計データや既往の調査、上位・関連計画を再整理した上で、令和5年9月頃に都市交通施策に関するニーズ調査を実施。 ニーズ調査の結果や地域公共交通会議での協議内容を踏まえ、令和6年1月頃に地域公共交通会議にて幸田町地域公共交通計画(素案)に関する協議を実施。 現在、パブリックコメント期間中であり、意見や指摘事項について募集を行っているところ。今後、パブリックコメントへの対応結果を踏まえ、最終的なとりまとめを行う予定であり、令和6年度を目途に幸田町地域公共交通計画を策定予定。	【補助対象事業名】 幸田町地域公共交通計画策定事業 【事業実施時期】 令和5年5月26日から令和6年3月29日 【事業内容等】 ・現況整理 - 人口分布、施設立地状況、移動特性、公共交通の現状の整理 - 令和5年5月26日から令和5年7月26日 ・都市交通施策に関するニーズ調査 - 鉄道利用者、高齢者(65歳以上)、中高生、企業、町民(18歳から64歳)、障がい者団体に対して、アンケート調査またはヒアリング調査を行う。 - 令和5年9月21日から10月20日 ・幸田町地域公共交通計画(案)の作成 - 現況整理やニーズ調査、幸田町地域公共交通会議の審議内容を反映させた計画(案)を策定。 【策定に向けた方針】 人・まち・地球を大切にする公共交通体系の構築を基本理念に掲げ、実現性の旗印となる基本方針を定めて、事業展開を図る。 ①基本モードの連携による生活の足の確報 ・交通結節点の機能強化 ・町内公共交通の見直し ②まちの元気の創出支援 ・企業や地域活動との連携 ・新技術の積極的活用による利便性向上 ③人や地球への思いやり ・地域環境問題への取り組みの推進 ・移動製業者に対する支援

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月19日

協議会名：	幸田町地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名：	幸田町地域公共交通計画策定事業
----------	-----------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	幸田町では、持続的発展に向けた交通体系を確立するため、令和2年度7月に都市交通マスタープランを改定し、各種施策の実現に向けた取り組みを随時進めている。特に、幸田町における地域公共交通の主軸であるコミュニティバス(えこたんバス)は、利便性の低さから利用が低迷しているため、コミュニティバス(えこたんバス)の運行内容の早期見直しを含めた交通体系の確立が喫緊の課題である。 本事業は、幸田町における公共交通の課題を整理し、課題解決の方向性や公共交通の形成方針、主要な施策・実施主体等を明確化することで、幸田町が運営する公共交通(えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシー)や多様な関係者間の連携・役割分担を促進し、効率的で利便性の高い持続可能な公共交通を実現するために必要な事業である。
-----------------------------	---

中部様式
(調査事業)

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

幸田町地域公共交通会議

令和4年7月25日設置

調査事業（計画策定） 令和6年3月 地域公共交通計画策定予定

調査の背景および必要性

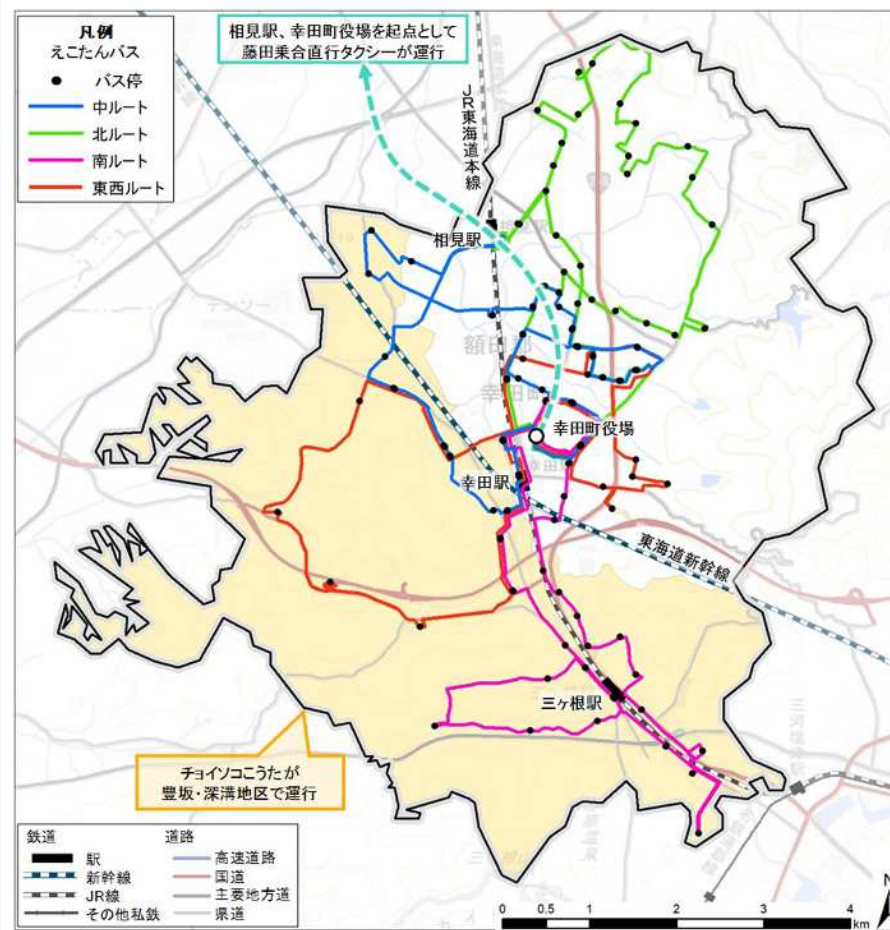
- 幸田町は、広域交通を処理する道路や鉄道等の交通基盤に恵まれ、交通の要衝として多くの企業が立地しており、人口も増加傾向にあります。が、**高齢化が進展**（高齢化率平成7年：約11%、令和2年：21.7%）しており、加齢に伴い自動車の運転が難しくなる等により、**将来的な移動制約者の急増が懸念**。
- 幸田町内の移動手段として、**コミュニティバス**（以下、「えこたんバス」と記載）が運行しているが、**利便性が低くあまり利用されていない**（利用率1%程度）。公共交通の利便性・効率性の向上に際しては、幸田町における地域公共交通の主軸である「**えこたんバス**」の**運行内容の早期見直しを含めた交通体系の確立が喫緊の課題**。
- 幸田町では、都市交通のあり方について長期的な視点から目標を掲げ、個別の課題に対する施策とその推進方策を示すものとして、令和2年7月に「**幸田町都市交通マスタープラン**」を改定し、各種施策の実現に向けた取組を推進。
- 「幸田町都市交通マスタープラン」で掲げられた公共交通施策を推進し、**幸田町の持続的な発展を目指すために、調査事業を活用して、幸田町地域公共交通計画の策定**へ向けた取組を行うこととした。

【調査事業の内容】

- ① 現況整理
- ② 都市交通施策に関するニーズ調査
- ③ 幸田町地域公共交通計画（案）の作成
- ④ 幸田町地域公共交通会議における協議・報告

幸田町における公共交通ネットワーク

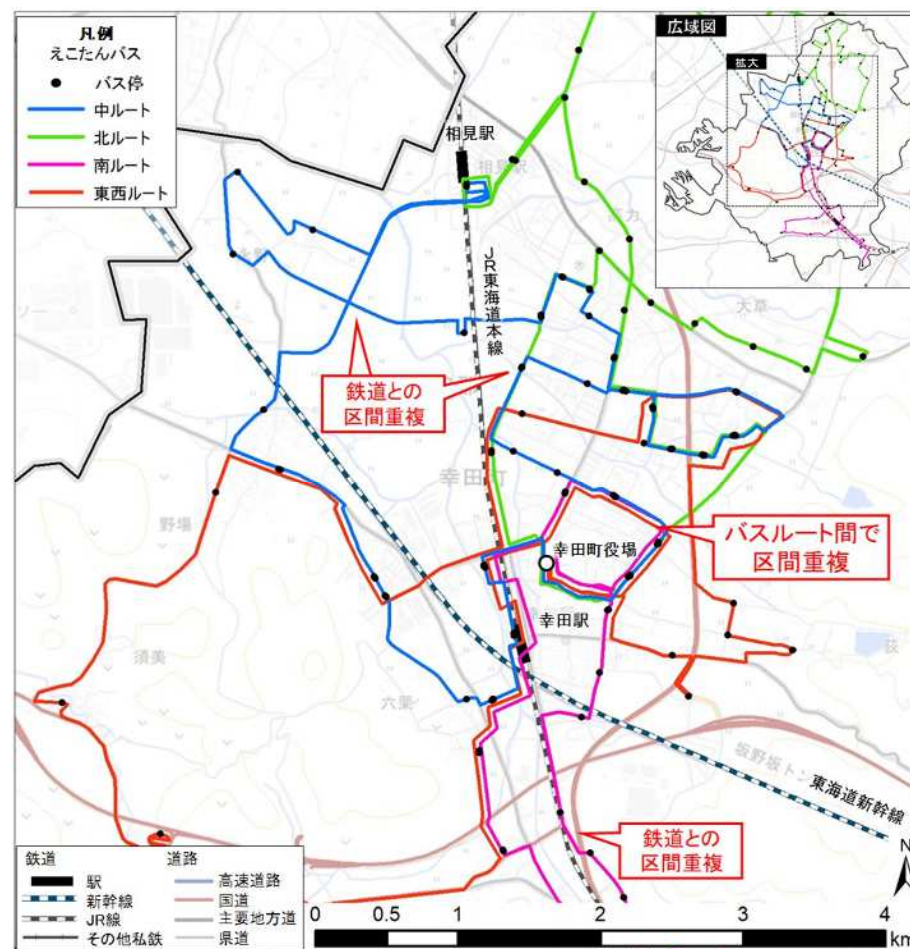
- 町内には、JRの相見駅、幸田駅、三ヶ根駅の3駅が立地
- 役場を中心に「えこたんバス」が運行
- デマンド型乗合交通の「チョイソコこうた」と、藤田医科大学岡崎医療センターへの行き来を担っている「藤田乗合直行タクシー」が導入され実証実験を実施中。



参考：えこたんバスの概況

- えこたんバスは、役場や駅を拠点とし、ハピネス・ヒル・幸田などの町内の主な施設、病院、商業施設などを循環し、駅にも連絡する無料のコミュニティバス。
- バスルートは4ルートあり、全てのルートが役場に集約される循環型のバスルート。鉄道やバスルート間で重複が生じている区間が存在し、非効率なルート設定。加えて、一周当たりの所要時間が約1時間と長大な路線になっており、バス乗車時間と直接移動時間との間に大きな乖離が生じている可能性。

- 運賃：無料
- 利用者：誰でも利用が可能
- 運休日：土曜日、日曜日、12月29日から1月3日
(天候及び行事等により変更あり)
※平日のみ運行
- 経路：4 経路 (各経路は循環型として、運用)
- 注意事項
 - ・満席の場合は、乗車できない場合があります
 - ・道路事情により、出発・到着時間が遅れる場合があります
 - ・悪天候により、運行を取りやめる場合があります
 - ・バスは、20 人乗りから 29 人乗り
 - ・車イス対応のリフト車両もあり



実施した調査およびその結果明らかになったこと（その1）

事業内容	結果概要
現況整理	■人口 ・総人口は、令和2年まで一貫して増加傾向を示しており、平成7年から令和2年までの25年間で、約3割増加。 ・高齢化が進展してきており、平成7年に約11%だった高齢化率が、令和2年には21.7%まで上昇しており、5人に1人が65歳以上の高齢者となっている。加えて、高齢化率は今後も上昇する見込みとなっており、令和47年には高齢化率は28.5%まで上昇する予測。 ・人口分布は、鉄道に沿って南北に集中。特に、相見駅から幸田駅までの鉄道東側に集中。 ■町民の移動特性 ・幸田町民のよく行く移動先として、商業施設や、JR東海道本線の駅、ハッピーネス・ヒル・幸田等の主要な公共施設、医療施設の回答数が多く、移動先の施設はJR東海道本線の駅周辺や、ハッピーネス・ヒル・幸田の周辺に集中している傾向。 ■公共交通の現状 ・えこたんバスは、鉄道やバスルート間で重複が生じている区間が存在し、非効率なルート設定。加えて、一周当たりの所要時間が約1時間と長大な路線になっており、バス乗車時間と直接移動時間との間に大きな乖離が生じている可能性。 ・チョイソコこうたは、地域の大半を森林で覆われた地域を対象とし、えこたんバス（定時定路線型交通）のルート設定上の制約が多い地区を面的にカバーする役割を担う。 ・チョイソコこうたや藤田乗合直行タクシーの1人あたりの運営経費が高額である状況（チョイソコこうた：4,180円/人、藤田乗合直行タクシー：12,546円/人 ※令和4年度3月時点）。 ・令和5年2月に実施された住民意識調査によると、鉄道（JR）以外の公共交通の利用しやすさに対する評価は総じて低い状況。 ■上位・関連計画 ・幸田町都市計画マスタープランでは、幸田町の将来都市構造を形成するうえで、重要な機能を有する都市拠点として「3駅プラス1（JR東海道本線の幸田駅、相見駅、三ヶ根駅、ハッピーネス・ヒル・幸田）」を位置づけ。

実施した調査およびその結果明らかになったこと（その2）

事業内容	結果概要
都市交通施策 に関するニーズ調査 ①鉄道利用者アンケート ②高齢者アンケート ③中高生アンケート ④企業アンケート ⑤町民アンケート ⑥障がい者団体ヒアリング	■移動実態 ・高齢者の移動ニーズは3駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）周辺や幸田町の中心部に集中している可能性がある。 ・外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由として、「「出かけたい」と思える外出先が少ないから」が最も多く、約6割を占めていた。移動手段の確保だけでなく、外出をするキッカケ作りについても課題が存在している。 ■えこたんバス ・いずれの調査においても、えこたんバスの利用頻度について「ほとんど利用しない」と回答した人の割合は9割以上であった。利用者数が極端に少ないことから、バスサービスの根本的な再編が必要。 ・「運行本数を増やす」を改善点として挙げる人の割合は、いずれの対象者（高齢者、中高生、鉄道利用者）においても高かった。ルートのコンパクト化を図り、一周当たりの所要時間を短縮し、運行本数を確保することが必要。 ・中高生においては、「バス停に休憩施設（屋根、ベンチ等）を設置する」ことに対するニーズが高い。各停留所の乗降者数を踏まえ、優先順位を設定した上で、必要に応じて休憩施設（屋根、ベンチ等）を設置することが必要。 ■チョイソコこうた ・会員登録率は1割弱であることから、会員登録者数自体が少ないことが、利用者数が伸びない要因となっている可能性。認知度の向上や地域への働きかけ等により、公共交通を使う習慣作り等の利用促進面での取り組みが必要。 ■藤田乗合直行タクシー ・利用者の居住地から停留所へのアクセスに課題が生じている可能性がある。えこたんバスやチョイソコこうたとの連携等の取り組みが必要。

実施した調査およびその結果明らかになったこと（その3）

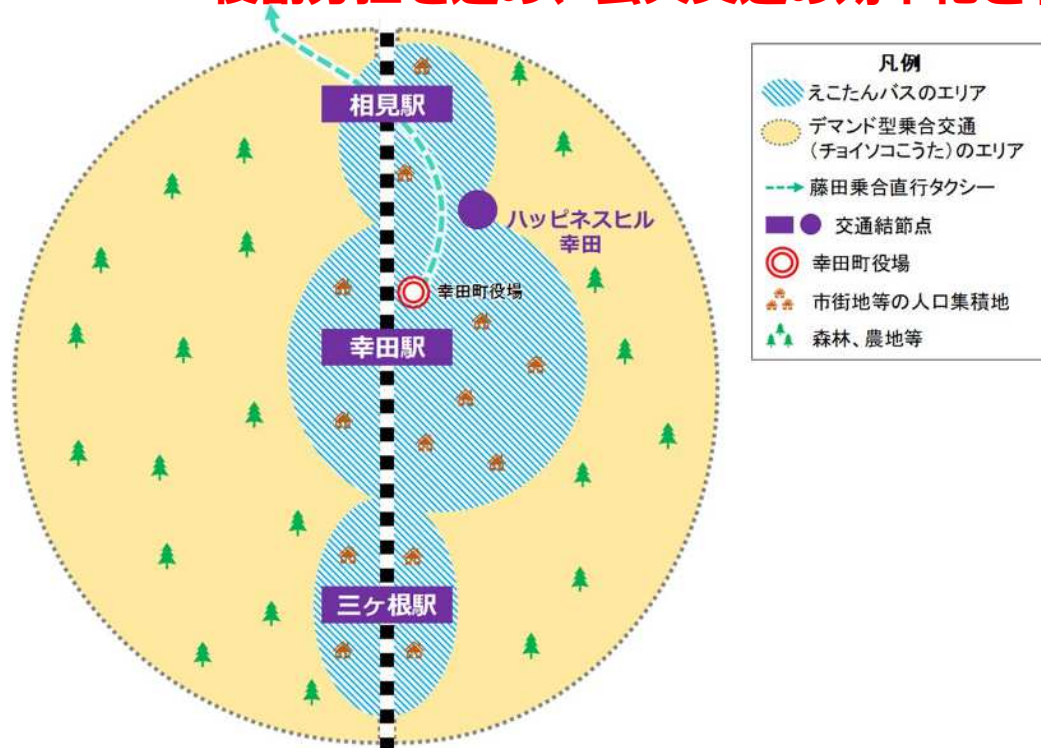
事業内容	結果概要
都市交通施策に関するニーズ調査 ①鉄道利用者アンケート ②高齢者アンケート ③中高生アンケート ④企業アンケート ⑤町民アンケート ⑥障がい者団体ヒアリング	■公共交通のあり方 ・高齢者、町民（18歳～64歳）、中高生、鉄道利用者のいずれにおいても、「高齢者、身体障がい者、妊産婦などの移動を便利にするため」を優先すべき目的として挙げる人の割合が最も高かった。公共交通の再編に当たっては、移動制約者の方の利用に配慮したサービスとすることが必要。 ・「「駅、買い物、通院」へ便利に移動できるようにするため」についても、優先すべき目的として挙げる人の割合が高かった。公共交通の再編に当たっては、3駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）や幸田町の中心部へのアクセス性を向上させる方向性を目指すことが必要。 ■障がい者団体ヒアリングの意見（公共交通を利用した際の問題・課題） ・緊急時の対応といった点で、バスの運転手の方が、耳が聞こえない人に対して、最低限の対応ができるかどうかも重要だと思う。例えば、伝言ボードのようなものがあれば良いかなと思う。 ・バスを待っている間の対応として、名古屋駅にあるようなバスロケーションシステムみたいなものがあると良いとは思っている。 ・福祉タクシーチケットを余暇的な移動で使うことに対する遠慮はあると思う。
幸田町地域公共交通計画（案）の作成	・現況整理等の調査や幸田町地域公共交通会議の審議内容を反映させた計画（素案）を策定。 【現在、パブリックコメントを実施中】
幸田町地域公共交通会議における協議・報告	・計画策定に向けた検討方針やニーズ調査等、計画素案等を地域公共交通会議で協議・報告（第1回会議：令和5年7月、第2回会議：令和5年10月、第3回会議：令和6年1月、第4回会議：令和6年3月（予定））

調査結果の地域公共交通計画への反映（幸田町が目指す公共交通の将来像）

実施した調査およびその結果明らかになったこと（抜粋）

- 都市計画マスタープランにおいて、都市拠点として「**3駅プラス1**」が位置づけ。
- 高齢者の移動ニーズは3駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）周辺や幸田町の中心部に集中。
- **えこたんバス**は、ルートのコンパクト化を図り、一周当たりの所要時間を短縮し、**運行本数を確保**することが必要。
- **チョイソコこうた**や**藤田乗合直行タクシー**の1人あたりの運営経費が高額である状況であり、**公共交通間の連携による効率化**を図ることが必要。

幸田町が運営する公共交通について、 役割分担を進め、公共交通の効率化と利便性向上を図ることが必要。



- 幸田駅、三ヶ根駅、相見駅、ハピネスヒル幸田を交通結節点として位置づけ、アクセス性を強化。
- えこたんバスは、3駅や人口集積地を中心に運行するコンパクトなルートに再編。
- デマンド型乗合交通は、えこたんバスを補完することで、鉄道駅や主要施設等への移動手段を担保。
- 藤田乗合直行タクシーは、幸田町と町外の総合病院を結ぶ。
- 必要に応じて、隣接自治体への乗り入れについても検討。

位置付け	系統	役割
広域幹線	JR東海道本線	幸田町と他地域を結ぶ広域交通軸
地域内幹線		幸田町内の居住地域や主要施設等を結ぶ地域内の基幹交通軸
支線	えこたんバス	幸田町内の居住地域と鉄道駅や主要施設等を結ぶフィーダー交通
	デマンド型乗合交通（チョイソコこうた）	えこたんバスを補完する交通
専用軸	藤田乗合直行タクシー	幸田町と町外の総合病院を結ぶ専用交通軸

図 幸田町が目指す公共交通の将来像

調査結果の地域公共交通計画への反映（計画の目標を達成するための主要施策）

実施した調査およびその結果明らかになったこと（抜粋）

- 高齢者、町民（18歳～64歳）、中高生、鉄道利用者のいずれにおいても、「高齢者、身体障がい者、妊産婦などの移動を便利にするため」を優先すべき目的として挙げる人の割合が最も高かった。公共交通の再編に当たっては、**移動制約者の方の利用に配慮したサービス**とすることが必要。
- 障がい者団体ヒアリングにおいて、耳が聞こえない人への対応として、**伝言ボードやバスロケーションシステム**に関する必要性が言及。

調査結果を、公共交通利用案内やバリアフリー化の推進等の主要施策へ反映

施策① 公共交通利用案内の充実

実施主体：幸田町、名古屋大学

関連する目標：基本目標6

●施策の背景・必要性

現在、えこたんバスについては、バスの遅延や通過等のリアルタイムでの情報提供は行われていません。また、ルートが複雑であることから、利用者目線で分かり易さに配慮した情報提供の拡充が必要です。

また、公共交通等の再編や新たなシステム導入と併せて、公共交通の運行情報等の周知促進についても粘り強く実施する必要があります。

●バスロケーションシステムの導入

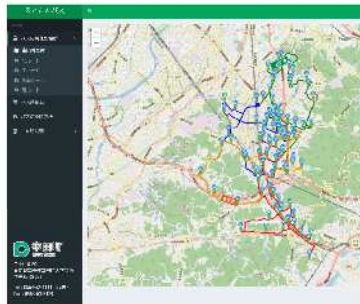
えこたんバスのリアルタイム情報が確認できるサイトの構築を行います。

●公共交通のPR

町の広報誌やホームページの活用し、公共交通の運行情報や利用による効果、公共交通施策の実施状況、公共交通の使い方に関する情報などのPRを行います。



資料：幸田町（広報誌）



資料：名古屋大学資料

（バスロケーションシステムの公開ページ（掲載画面））

施策② バリアフリー化の推進

実施主体：幸田町

関連する目標：基本目標6

●施策の背景・必要性

障がい者団体ヒアリングにて、幸田町内の公共交通に関する問題として、三ヶ根駅は「エレベーターが無いから足が重い人は大変」との指摘が多くなされています。また、緊急時の対応といった点で、「バスの運転手の方が、耳が聞こえない人に対して、最低限の対応ができるかどうかも重要だと思う。例えば、伝言ボードのようなものがあれば良いかなと思う。」といった指摘もあり、バリアフリー化の面で改善すべき課題が残されています。

●三ヶ根駅の整備【再掲】

高齢者や障がい者の利用に配慮し、バリアフリーの考え方を踏まえた施設（エレベーター、多機能トイレ等）の設置を推進します。

●筆談ボードの設置

聴覚障がい者の方等が安心して公共交通を利用できるように、えこたんバスやチョイスこくた、藤田乗合直行タクシーに対して、目で見える情報として、筆談ボードの設置を進めます。



資料：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団（コミュニケーション支援ボード掲載）

調査結果の地域公共交通計画への反映（計画の目標を達成するための主要施策）

実施した調査およびその結果明らかになったこと（抜粋）

- 外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由として、「「出かけたい」と思える外出先が少ないから」が最も多く、約6割を占めていた。**移動手段の確保だけでなく、外出をするキッカケ作りについても課題**が存在している。

調査結果を踏まえ、外出支援や地域活動との連携に関する主要施策を設定 外出促進の動向を把握するための成果指標として「公共施設の利用者数」を設定

施策⑤

外出支援や地域活動との連携

実施主体：幸田町、地域団体、名古屋大学 関連する目標：基本目標3

●施策の背景・必要性

高齢者が、「外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由」として、「「出かけたい」と思える外出先が少ないから」は約5割を占めており、移動手段の確保は勿論のこと、外出をするキッカケ作りについても課題が存在しています。

●祭事やまちづくりイベントとの連携

町内で開催する催し物や地域活動の際に、会場への移動手段としてえこたんバスの活用（臨時便の運行や、来訪者へのえこたんバス利用の案内等）や、公共交通を利用して会場へ来訪した人へのインセンティブの導入の可能性を検討します。

●坂崎コミュニティライドの社会実装、横展開の検討

坂崎区と取組を進めている坂崎コミュニティライドについて、関係各課や名古屋大学、地域団体と連携しながら、社会実装を進めます。また、地域組織からの要望があった際には、取組内容や幸田町からの支援の紹介を行います。



資料：幸田町 HP（行事・イベント）

基本方針：まちの元気の創出支援

基本目標3：企業や地域活動との連携

バス停やバス車内への広告設置や、外出支援や地域活動との連携、地域主体の取組の社会実装等を進めることで、外出支援やコミュニティの創生を図り、まちの元気の創出を支援します。

■主要施策

- ④企業等との連携
- ⑤外出支援や地域活動との連携

基本目標4：新技術の積極的活用による利便性向上

自動運転やMaaSの開発、ICT技術の活用による効率化を積極的に推進することで、新たな活力を創出するための基盤整備を行います。

■主要施策

- ⑥タクシー助成券の決済高度化に向けた実証
- ⑦バス利用実績の収集・蓄積システムの構築
- ⑧新たなモビリティサービスの導入に向けた技術研究

■成果指標

	現況値	目標値	取得・算出方法
公共施設の 利用者数	180,153人/年 ^{※1}	304,865人/年 ^{※2}	こうだの統計に記載の数値を 活用
定住意向	58.1% ^{※3}	64.3% ^{※4}	住民意識調査より算出

※1…令和3年度の町民会館（66,249人/年）、中央公民館（19,735人/年）、郷土資料館（3,539人/年）、さくら会館（7,788人/年）、町民プール（82,842人/年）の合計を計上

※2…コロナ禍前の実績値として平成30年度の実績値を目標値として設定

※3…「幸田町に住みたいか」に対して、「住みたい」と回答した人の割合を計上

※4…定住意向は減少傾向にあるため、データ取得が可能な直近4カ年（平成28年度：64.3%、平成31年度：61.1%、令和3年度：59.2%、令和5年度：58.1%）における最高値を目標値として設定